

財団法人太平洋人材交流センター 設立二十周年記念誌

— 途上国に役立つ人材育成協力の歩みと実績 —

20  TH ANNIVERSARY **PREX**

財団法人 太平洋人材交流センター 設立二十周年記念誌
—— 途上国に役立つ人材育成協力の歩みと実績 ——

刊行にあたって

本記念誌では、設立から現在に至る途上国に役立つ人材育成協力の歩みと実績を整理し、PREXの培ってきた強みと特色をご紹介しますとともに、PREXの活動に関与された多くの方々から「PREXと私」というテーマでご寄稿文またはメッセージをいただき、PREXの活動が関西の産・官・学の数多くの方々のご支援とご協力で支えられてきたことを浮き彫りにさせていただきます。ご寄稿文、メッセージをいただきました方々に厚くお礼申し上げます。

目次

会長メッセージ

9

P R E X の歩みと実績

13

P R E X 設立の経緯

14

P R E X の歩み

18

二十年で蓄積された活動の成果

24

産業振興分野のマネージメント研修での経験・ノウハウの蓄積

24

時代の変化に対応した新たな研修への取り組み

33

国際的人的ネットワークの構築

36

関西の産・官・学の支援、協力体制

37

政府機関、O D A 機関との密接な連携、協力関係

39

研修を通じた国際的人材交流と相互理解促進

40

着実な広報活動の展開

44

太平洋経済展望（PEO）日本委員会への継続的な助成
ユニークな活動に表彰
トピックス

45 48

PREXとわたし

57

歴代トップ役員、設立・運営に関与いただいた方々

58

研修委託元機関・関係機関・自治体・出向者派遣元企業

70

主要協力企業

79

主要講師

90

PREX同窓会メンバー・現地関係機関

104

歴代出向者・職員

118

資料

137

財団法人太平洋人材交流センター 設立趣意書

138

研修員数の国別実績

140

テーマ別研修コース実施実績

142

PREX研修参加者による同窓会組織

152

海外研修、現地ニーズ調査などで連携した現地関係機関

153

フォーラム、シンポジウムの開催実績	154
現在の理事・監事・評議員・顧問	157
歴代理事・監事・評議員・顧問	158
寄附・出捐団体	163
研修受託元機関・関係機関	163
協力企業・団体	164
講師・専門家	173
出向者派遣企業・出向職員	176
研修・その他事業・共通費他の収支・正味財産の推移 年表	178
公益財団法人への移行	180
公益財団法人移行時の理事・監事・評議員・最高顧問・特別顧問・顧問	186
公益財団法人 太平洋人材交流センター 定款	188

設立二十周年を迎えて

財団法人太平洋人材交流センター 会長 井上義國

財団法人太平洋人材交流センター（PREX）は二〇一〇年四月、設立二十周年を迎えました。PREXは、ODAを活用して途上国の人材育成に協力することによって途上国の発展に役立つと同時に、研修事業を通じて途上国と関西の人々との交流の活発化を図り、関西の発展をめざすことを目的に設立されました。

この二十年間、世界情勢は激しく揺れ動きました。PREXが設立された一九九〇年には、ベルリンの壁が崩壊し、東ヨーロッパの自由経済化が始まりました。一九九一年には、ソ連共産党が解体され、ロシアの市場経済への移行が始まりました。ASEAN諸国の経済発展も目覚しく一九九六年にはシンガポールが先進国の仲間入りをしました。中国の急速な経済発展も世界経済にインパクトを与えています。



一九九〇年 設立披露パーティにて
（左から井上会長、神田前会長、山田初代理事長、萩尾現監事）

PREXは、もともとアジア・太平洋地域の途上国の人材育成支援に重点を置いていますが、これら世界情勢への変化に対応しつつ、研修対象国や研修分野を拡大しながら進化してきました。日本政府の要請もあったことですが、東ヨーロッパやロシアの市場経済化を進めるリーダーの育成にも協力しました。

この結果、二十年間の研修対象国・地域は百三十一に達し、研修員は一万三千人を超えました。国別の研修員数では第一位が中国、ついでインドネシア、ベトナムとなります。これらの国々の近年の目覚ましい経済発展を考える時、PREXの人材育成援助活動がその発展の一翼を担っているといえます。そう自負してもいいと思います。

また、PREXは、この二十一年間で貴重な人的ネットワークを構築してきました。アジア・太平洋地域の途上国の人々が研修のために関西を訪れ、企業経営者や政府機関、自治体、大学などの人々との交流を積み重ね相互理解を深めました。帰国した研修員の同窓会もアジア、中米など十三の国と地域に結成され緊密に連絡をとりあっております。これらのことは、今後の関西の発展にとつての財産であると同時に、PREX発展のための貴重な財産となるはずで

す。途上国の人材育成に必要な研修システムも時代とともに進化しました。たとえば、一九九七年から始まった四力年計画を前提としたインドネシアのプロジェクト方式技術協力による貿易人材育成事業は画期的な成果をおさめました。一九九八年からはテレビ会議システムを使った関西と途上国を結ぶ遠隔研修を実施し、研修効率の大幅な向上を図りました。



一九九一年 マレーシアにおけるPREX初の海外研修の開講式。



一九九八年 ODAを活用した初の遠隔研修を実施。大阪、タイ、インドネシアを結んだ。

P R E Xを取り巻く環境は、これからも変化し続けるものと予想しておかなければなりません。特に新興国の急速な経済発展が世界を変え、日本にも強いインパクトを与えます。P R E Xは、過去の成功経験に頼ることなく、途上国の発展に必要な人材の育成に役立つ「日本の強み」とは何か、また日本が世界から学ぶべきものは何かをはっきり認識したうえで、時代の変化に対応した新たな研修事業を企画、実施し、人的交流の活発化を図ることがより重要となります。

太陽光発電や水処理といった環境問題など時代の要請に応じたテーマの人材育成支援や、将来の中堅マネージャー候補である在日外国人留學生の実務研修支援など新しい分野に焦点を当てます。また、近い将来には途上国の人材育成のみならず、日本人のグローバル人材育成を取り組むテーマとして具体化を検討する計画です。

世界経済の発展にとっても日本経済の成長にとっても、アジア・太平洋地域の途上国の人材育成支援はますます重要な課題になります。P R E Xは引き続き、途上国の中堅マネージャー育成支援と、研修事業を通じて関西のグローバルな人的交流の活発化を図るといふ基本理念のもとに活動を展開していきます。

P R E Xはこれまで、関西の企業経営者、地方自治体、大学関係者などの強力なバックアップによって発展してきました。今後も「途上国にとって、関西にとって、なくなっては困る、なくてはならない存在」になることをめざし、職員一丸となって努力する所存です。関係各位の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



二〇〇八年 高村外務大臣(当時)より外務大臣表彰を授与される。



二〇〇九～二〇一〇年 途上国の二つの高い「太陽光発電導入支援計画研修」を実施。